

ふくおか元気向上チャレンジ（在宅高齢者の要介護状態改善事業）
要介護状態改善取組報告書 記載要領

1 チーム（介護事業所・利用者）の情報

(1) 登録番号

「参加決定通知書」又は「1次評価決定通知書」の登録番号を記載してください。

(2) 年齢

報告書の提出日時点の年齢を記載してください。

(3) 性別

(4) 性格 ～ (8) 居住環境（課題含む）

取組前の利用者の性格、趣味、楽しみ、特技、家族構成などについて記載してください。

（記載例）

- ・性格：努力家、前向き、社交的
- ・趣味・楽しみ・特技：手芸、料理、散歩
- ・家族構成や家族との関係：現在は夫と2人暮らし。2人の娘のうち長女は近くに、次女は海外に住んでいる。長女は孫と共に定期的に訪問しており、家族関係は良好。生活の中では母としての役割を果たすことを大事にしている。
- ・職歴：○年間、小学校の購買で仕事をしていた。
- ・居住環境（課題含む）：持家2階建て、居室1階、玄関段差に手すり有、寝具はベッド。浴槽が高い。

(9) 病名・既往歴

主治医意見書からの情報や利用者・家族からの聴取をもとに記載してください。

入退院歴は、時系列に記載をお願いします。

（記載内容）

- ・入退院歴、主な病名、原因、治療内容や経過、服薬の状況、通院頻度や方法 等

（記載例）

- ・入院歴：○年○月に脳梗塞を発症も明らかな麻痺はなし。○年○月に自宅で転倒。腰椎圧迫骨折、左大腿骨頸部骨折を受傷、人工股関節置換術を施行し、同年○月に入院し、翌々月退院。
- ・既往歴：腰椎圧迫骨折、左大腿骨頸部骨折
- ・受診状況：○○内科に月1回程度受診

(10) 生活の様子（一日の過ごし方）

利用者や家族の困っていること、不安、思いを踏まえ、利用者の生活の様子について記載してください。

（記載例）

- ・自宅で転倒し、骨折により○日間の入院。退院時は要介護3で手足の痛みと筋力低下により、外出や体を動かすことに自信がない。
- ・1日の大半は自宅でテレビを見て過ごすことが多い。
- ・以前は、町内会の役員を務めるなど地域活動にも積極的に参加していたため、元気になって地域に顔を出したいと思っている。
- ・同居の娘さんもできるだけ本人の思いを尊重し、自立できるように手助けしたい。

(11) チーム構成（サービス種別）

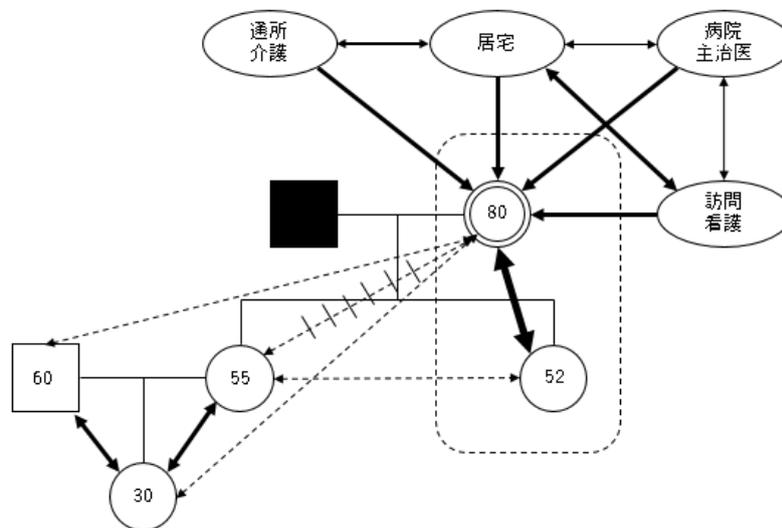
参加申請（変更申請を含む）を行った介護事業所のサービス種別を記載してください。

※ 変更申請において、「追加・終了」となった介護事業所も含めて記載してください。

また、参加事業所以外（インフォーマルサービス）もあれば記載してください。

(12) 家族等の状況（エコマップ）

利用者を中心に、家族や介護事業所等との関係性（エコマップ）について記載してください。



<エコマップの書き方>

利用者との関係性を（1）強い関係、（2）普通の関係、（3）弱い関係、（4）対立関係、という具合に分けて記載してください。

基本は男性が左、女性が右で記載してください。

同居家族は点線で囲ってください。

<記号例>

○：女性（本人は二重）、□：男性（本人は二重）、△：その他、●■：死亡

—：婚姻 /：別居 //：離婚

<表記の説明>

	実線の太いものほど重要、もしくは強い関係
	ストレスのある、又は葛藤のある関係
	希薄な関係
	資源・エネルギー・関心のフロー

2 要介護状態改善取組内容

(1) 目標（利用者のしたいこと・やりたいこと）

ふくおか元気向上チャレンジに参加するにあたって設定した、あるいは設定していた目標（したいこと・やりたいこと）を記載してください。

（記載例）

- ・自分の足で遠方に住む孫に会いに行きたい。
- ・これまでの生活を取り戻し、以前のように散髪や買い物をしに外出したい。
- ・自分でトイレに行きたい。（排泄の自立）

(2) 目標設定の理由（背景）

利用者の望む目標（したい・やりたい）設定の理由（背景）について記載してください。

（目標設定に至るまでのエピソードや解決すべき課題など自由に記載してください。）

（記載例）

・自宅で転倒し、膝を悪くしてからは長時間歩くことに対して自信をなくしている。近くに住む娘や孫も顔を見せに来てくれるが、自らが「誰かのためになりたい」という想いが強く、本人からは「自分の足で孫に会いに行きたい」との希望の声があった。その目標に向けて、チーム一丸となって取り組むことになった。

・退院時は自宅で暮らしていけるか不安を抱えていたが、同居の娘さんがいる心強さと、住み慣れた自宅に戻れた安心感から「自分一人でトイレに行きたい」と希望を口にされるようになり、「70代で運転免許を取った」「20年以上毎日歩いていた」という話から本人の強い意志を感じ、「排泄の自立」をチームの目標に設定した。

(3) チームスローガン

チームの特徴などを簡潔に表すスローガンを記載してください。

※記載が難しい場合、省略しても構いませんが、できるだけ記載をお願いいたします。

（記載例）

- ・専門職の視点をフル活用！娘さんのいる住み慣れた家で暮らしていくために。

(4) 取組内容

以下の①～③を踏まえ、要介護や ADL 等が改善に至った取組内容について自由に記載してください。

①利用者の QOL の確保

当事業に参加することになったきっかけや背景

利用者の状態把握を踏まえ、取組意欲の継続や生活維持に向けて工夫したこと

②チーム連携

チーム間で専門的な視点や強みが活かされたこと、目標達成に向けてチームで意識したこと、情報共有にあたって工夫したこと

③利用者や家族とのコミュニケーション

目標達成やサービス提供に活かすために行った利用者や家族とのコミュニケーションや支援事業参加を通しての利用者や家族の変化

※ 介護保険のサービスだけではなく、利用者自身のセルフケアや家族の支援、インフォーマルサービスなども踏まえ記載してください。

※ 利用者や家族等の声やエピソードを交え、ストーリー性を意識し、記載してください。

(記載例)

・膝や腰に痛みを抱え、室内での立ち上がりにも困難を感じていた。介護支援専門員が状態改善を目指して「ふくおか元気向上チャレンジ」への参加を提案したところ、同居する娘さんから「やってみたらいいよ」との声が背中を押し、参加を決意した。また、同じチームの通所介護事業所や福祉用具貸与事業所もこの事業に興味があり、目標を達成するための絶好の機会だとチームの気持ちが一つになった。

・まず、「安定して歩きたい」「膝の痛みをとりたい」との本人の意向を踏まえ、身体機能と下肢機能の回復、体力向上を目指し、住宅改修と福祉用具の導入による生活環境の整備、配食サービスでの栄養面のサポートと見守りを行うとともに、骨折するまで利用していた通所介護を再開。通所介護は機能訓練特化型を利用。歩行を安定させるため、下半身の筋力や体幹を強化するマシントレーニングと並行して理学療法士や作業療法士が個別訓練を行った。

・また、専門職チームと娘さんが団結し、機能訓練や毎日の生活を支えた。機能訓練中は耳の遠い本人のために娘さんが理学療法士さんの指示を伝え、手を握って安心させた。介助の仕方も細かく娘さんにレクチャーし、疑問点は質問して解明。さらに体重や血圧を毎日記録し、それが心臓への負荷を考慮したりハビリメニューに生かされた。

・そのほか、本人に次のステップに繋がるイメージをしてもらうため、具体的な生活場面を想定し、昼食時の机拭き等の場を設定。その際、自信のない本人の気持ちに寄り添い、まず

は職員と一緒にいうという段階を踏んで本人の自信になるよう関わった。リハビリ等により状態が安定してから、事業所内で料理教室の場を設定することになった際は、本人がリーダー的な役割を担った。また、音楽療法を取り入れ、和歌を詠んだり、楽器のパート別演奏など自己表現することで自分を認めてもらう場とした。本人の居場所ができることで、やればできるという自信に繋がった。

・歩行状態について介護支援専門員からチーム全体にフィードバックされ、理学療法士から歩行器選定の助言を受けるなどチームの横のつながりが適切な福祉用具にも繋がった。また、介護支援専門員が通所介護事業所をこまめに訪問し、通所介護の連絡帳からリハビリの様子を把握。娘さんが毎日記録する血圧や血糖値などを確認し、気になることがあればご家族や介護支援専門員に情報提供。発熱の予兆などを察知することで早めの対応につながった。体調や食事量など小さな変化であっても、サービス提供事業者から介護支援専門員に連絡が入るような体制とし、チーム全体で情報共有を図った。

・外出や運動の自信を無くし、時より笑顔が消えていたが、改善の兆候が見えてきてからは、本人に役割を与え、それが本人の居場所となり、「やればできる」という自信につながった。事業所としても「利用者主体」がどういうことであるか身をもって知ることができた。取組み後は、歩行練習や筋力向上のため長時間歩いても苦痛ではなくなり、利用者、家族、職員の3者共通の話題として、取組状況や成果を笑顔で話す機会が多くなった。

・ご家族からは、「動作に変化が見られ、立っているときの支える負担が軽くなった」「笑顔が増え、デイサービスで取り組んだことを語るようになってくれた」など、介助の負担が減ってきたことを家族も実感している。

(7) 取組の満足度・課題や新たな目標

成果に至ったと考えられる要因は何か記載してください。

目標の達成度、取組みの満足度（在宅で過ごしている時間の暮らしの質）、また、取組みにあたって困難に感じたことや今後の改善策、新たな目標など自由に記載してください。

(記載例)

・娘さんに協力いただいたこと、またデイサービス利用中も本人に役割を与え、自分を認めてくれる居場所を作ることが身体改善に大きな効果をもたらした。新しい利用者が入ってきても「私もこんなに元気になったから、頑張りましょう」と励ましの言葉をかける場面も見られ、リハビリの効果を上げるには精神面の支援も欠かせないと実感した。また、自分の足で孫の家に行って、一緒に遊んだり、料理を振る舞っている。本人からは「年齢が高くても状態が改善し、達成感でいっぱい」「現在、幸せな生活を送ることができ、感謝しています」と専門職としてもやりがいを実感することができた。

報告書の作成にあたって・・・

- ご利用者やその家族の個人名及び事業所名は記載しないでください。
- 場合によっては、報告書の内容についてヒアリングさせて頂く場合がございます。ご協力をよろしくお願いいたします。